人　自分たちのまちは自分たちでつくる　坂梨宿場會

志賀聡雄（しが としお）さん

今月は、まちづくり団体「坂梨宿場會」の事務局志賀聡雄さん（55歳）と会員有志の方々を紹介します。

地域の歴史や先人たちの知恵あるくらしを学んでみる

一度都会に出た経験のある志賀さんは、阿蘇や坂梨のいいところがよく目につくようになったと言います。豊かな自然が見せる季節の移ろいの美しさ、ミネラルウォーターが生活用水である外輪山伏流水の恵み。石工・卯助が架けた現役の石橋「天神橋」、木喰上人作「子安観音像」、「古閑の滝」等々の歴史と文化遺産や名所が多く、伊能忠敬、高山彦九郎が投宿し、勝海舟、坂本龍馬が歩いた豊後街道の宿場町坂梨が持つ風情ゆたかな町と…何より、気のいい人たちが住んでいること。

会結成のきっかけは、志賀さんらが地域の数人に「私たちの町について、夢を語り、夢を共有し急がずに、自分たちの町は自分たちの手で、できることからやってみよう」と声をかけたこと。すると何人もの有志が「住む人にも、成長した子どもたちが坂梨を離れてもいいところだと誇れるまちにしたい」と意気投合。平成11年「坂梨宿場會」結成。まずは、坂梨の歴史を知ろうと嘉悦渉さんによる歴史の勉強会が毎月始まりました。

自分たちのまちは自分たちでつくる

風情ある「宿場町」の復元計画は、会員が最も力を入れてきたことの一つ。有志や会員による水車、水場の建設をはじめ、地域の方々の協力で常夜灯や軒灯の設置は45基に。町並みの優しい景観のためにとブロック塀を板塀へ替えた会員もいます。

そのほか「自分たちのまちは、自分たちの手でよくしていこう」をモットーに、除草清掃活動、植樹、ギャラリーなど地域イベントの開催。また、初めて訪れる人や地域の子どもたちに読んでもらおうと史跡案内高札の設置、ガイドマップの作成と配布、そしてホームページの開設も行いました。ホームページでは「冬季の古閑の滝」や「坂梨宿場通り」の今の様子がライブ画像で見ることができるほか、坂梨の古地図、34の史跡紹介、写真館、活動報告など、なんと写真付きで毎日更新されています。

熱い仲間たち

志賀さんは会員をこう語られます。「会員は積極的でとても個性的なのが最高にいい。得意な分野で各々が力を発揮し時には家族まで引っ張り出す。例えば、史跡案内高札の達筆な文字も会員の奥様である。天神橋等の除草清掃等で会員の都合がつかない時でも代役で家族を参加させる。また、時間より早く来て作業を始めたり、誰も指図しなくても各自が手早くやってしまう。そして何より『やってやった』と恩着せがましい処がまったくないのが爽やかなんです。さっと集まり、黙々と汗して片付け、さっさと踵を返す、その後ろ姿が何ともカッコいいんです。みんな向いてる方向はバラバラの様だか情熱とその目的は『俺たちの坂梨』に向かっているのを強く感じる。そんなすばらしい仲間に囲まれ共に活動できることがとても幸せ」だと。

地域で暮らす楽しみを共有

「さかなし宿場會瓦版」を結成時から毎月発行。例会や活動を記録し会員に報告、先月で91号を数えます。「会員が楽しみながら、何事もプラス思考で留まることなく、できることを継続することが大切」「様々な活動で地域の人たちと一層の交流の機会が増えること、常夜灯のほのかな灯りが防犯の役目と坂梨の将来を照らすことになれば」と志賀さん。会員数も結成当時の約3倍39人になった「坂梨宿場會」。これからも仲間あってこその会、例会で楽しく夢を語り合いながら、さらに来てよし住んでよしの坂梨に一歩ずつ歩いていきたいとのことです。

「くまもと県民文化賞」を受賞

「坂梨宿場會」は、昨年、地域文化活動の功績が認められ、「第16回くまもと県民文化賞」を受賞しました。